チェリー

海治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
チェリー

【Ｎコード】
Ｎ３６１６Ｄ

【作者名】
海治

【あらすじ】
チェリーと彼の不思議な生活。なぜ彼はそれ以上チェリーを愛さないのだろうか？

この上なく彼は優しい。かと言ってベタベタし過ぎず、サラッとしていて爽やかな彼。この間も買い物に付き合ってあげたら、彼ったら私を店の外で待たせておいて実は私の大好物のケーキをこっそり買ってきてくれた。私のお誕生日をしっかり覚えておいてくれた。

物心付いた頃からずっと一緒だった。年上の彼はとてもしっかりしていて頼もしい。彼の一番好きなところは、優しくて頼れるところ。彼は優柔不断な私の悩みを解決してくれる。私の全てを支えてくれる。彼が好きなタイプは可愛らしい子。そんな彼の好みの壷に私がきっとはまっているんだろう。男の子って華奢な女の子に惹かれるらしいけど、私もか細く、背の低い小さなカワイイ系の女の子。目はくりっとして丸く、髪は彼の好みでロングにしている。この髪は私の一番のチャームポイントであり、彼は私の髪の毛に触れながらこう言ってくれる。

「シルクの様でサラサラして素敵だね。」

彼と同棲して2年以上。1LDKの部屋は2人で住むには決して広くは無いけれど、綺麗好きな彼がこまめに掃除してくれる。リビングには大きなベッドが置いてあり、赤と黒を基調にした部屋には緑の植物を所々に配し、東側の大きな窓に面した机には、そんなセンスの良い彼がいつもいる。彼はSOHO（ソーホー）をやっている。つまりスモールオフィスホームオフィスの略で、一日中パソコンを前にしてなにやらキーボードを叩いている。

ご飯は毎日彼が作る。彼の手作りの朝ご飯は愛情が篭っていて温かい。彼がご飯を作る間、私はじっと彼を見詰めている。彼の手は

てきぱきと器用でよく動く。朝ごはんが終わると決まって散歩に出掛ける。彼に寄り添い歩くのが大好きだ。歩道を歩く時も、横断歩道で信号を待っている間も、公園で植栽に沿って歩いている時も。このまま永遠に彼と歩いていたいといつも思う。

私は公園で犬に遭うのが苦手で、特に大きい犬がとっても苦手だ。昔、大きい犬に追いかけられたのがトラウマになってしまった。彼は犬が近くに来ると私をかばって体の影に隠してくれる。この前なんかあんまりしつこい犬がいたので私を抱き上げて犬から遠ざけ、助けてくれた。

私の名前は千絵里（ちえり）。彼は私のことをチェリーという愛称で呼んでくれる。チェリーボーイならぬチェリーガールだ。彼は意外と奥手な性格で、私に決して手を出さない。彼に何の不満も無いけれど、たった一つ不満を上げればそのことだろうか。一つ屋根の下で生活し、ベッドさえも共にしているのに何故なのだろうか。私も純情派ではあるけれど、さすがに年に何度かは自然と彼を欲して止まない時もある。そんな感情に耐えられずに、彼に物足りなさを感じる時がある。彼には人には言えない秘密が何かきっとある。それでも毎晩彼はベッドで私を両手で包んで眠らせてくれる。そんな私も普段は彼の匂いに包まれているだけで安心して眠ることが出来る。彼の秘密って何なのだろう。彼が私を抱かない理由って？結婚するまで操を守るって今時どれだけ純情な人なの？二人の将来のことを考えると不安な気持ちに襲われてしまう。

そんなある日、いつも出掛けない時間に彼と出掛けることになった。車でドライブした。小1時間走ったところで、とある家に着いた。そこで出てきたのは盛りの付いた牡犬だ。小型の、ヨークシャーテリアという種類のコートドッグだった。彼とその牡犬の飼い主は、私とその牡犬を出会わせ同じ部屋に押し込めた。犬が嫌いな私

は当然逃げ回った。３０分経ったのか１時間経ったのか私には分からなかった。でも、私は大変なことに気付いてしまった。私の目の前にいる犬という生き物は、まさに私自信であり私は人間ではなかったということを。彼が秘密を持っていたのではなく私が勘違いしていたのだった。私の目の前にいる犬という生き物は、私と同じ匂い、私と同じ声、同じコート、同じ姿で動き回っている。さすがの鈍い私でも気付いてしまった。私は人間ではなかった。

私は４頭の子犬を産んだ。今日も彼は彼の大好きな私のシルクの様なコートを優しくとかしてくれる。私は相変わらず幸せだ。彼の傍で暮らせさえすれば、それで満足だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3616d/

チェリー

2011年1月16日01時13分発行